

練馬区立開進第一中学校

開進一中だより

令和元年度 第7号 令和元年11月29日発行

人と人の触れ合い、心の温もり

校長 古山 真樹

SNSの普及により人と人の直接的なコミュニケーションが希薄きはくになっている現代、今後IT化が進めば、ますます人と向き合わなくとも済んでしまう生活が当たり前になってしまうのかもしれませんが、SNSの世界では決して幸福感、満足感は得られないと言われています。

そうした中、先日のリレーカーニバルには20人ほどの生徒がボランティアワークとして参加してくれました。終了後、青少年育成第二地区委員会で実施したアンケートには、たいへん喜ばしい記述がたくさん見られました。「私も小学生の時に参加したが、たくさんの人の力があって楽しくできていることを知り、私たちを支えてくれている大人の方々に感謝しなければと思った。」という内容がいくつも見られました。この気付きが大切ですね。私たちは知らないうちにどれだけ多くの人のお世話お世話になっているかを、頭で理解するだけではなく、実際に体験して気付くことによって、その人の視野を広げ、他者への感謝の心を常にもてる人へと成長させてくれます。

また、楽しかったこと・良かったこととして、「ありがとうと小さい子から言われたこと」「小学生が楽しそうにしていたので私も楽しめた」「小学生から大人まで様々な年齢層の人と関わったこと」といった内容も多くありました。人から「ありがとう」「お世話になりました」という言葉をかけられると、自分の心に明かりが灯ともったような、ちょっと気恥きはずかしいうれしい気持ちが芽生えます。「あー、やってよかった、人のためになれた」と満足感・充実感が心の中に広がっていく幸せを感じます。さらに言えば、そのような言葉がなくても他者の役に立てたという気持ちだけで自分の心が温かくなるものです。

このような気持ちというのは、自分一人では得られない、人と関わって始めて獲得することができる幸福感ではないでしょうか。こういうあったかい気持ちを経験することが、他者を大切にし、心から他者に優しくできる人に成長させてくれます。このささやかな幸福感こそが人間の根源的な幸せではないでしょうか。

ボランティアとは、どんな仕事をしたかよりもこのような心の作用を経験することが尊いのです。こういう気持ちを味わった人は決して自己中心的に陥おちいることはなく、他者を思いやり、他者とともに手を取り合っ

て歩んでいく人になるでしょう。

このような貴重な体験の機会を与えてくださっている第二地区委員会の皆様に感謝申し上げます。

今月の金言・名言 明日死ぬかのように生きよ 永遠に生きるかのように学べ

マハトマ・ガンジー

たいへん激しい言葉、衝撃しょうげき的な言い回しでドキッとさせられる言葉ですね。インドの独立に向けて非暴力・不従つらぬの信念を貫いた、インド独立の父と尊敬されるマハトマ・ガンジーの言葉だからこそ余計に胸に突き刺さってきます。強烈なインパクトのある言葉ですが、要は「今この時を必死に生きよ」という意味と言えます。

まず、時代背景から考えると、学問もなく植民地としての苦しい生活にただ甘んじて嘆いているだけでは何の進歩もない。武力ではなく、知性と信念と団結でインドの独立を成し遂げようという民衆への強いメッセージにも感じられます。

また、あなたは明日死ぬとわかったら残り一日をどう生きますか、永遠に生きるとなったら学び続けますか、と自分の生き方を問いただされているかのようにも響いてきます。人間だれしも充実感をもって死を迎えたいですね。また、学ぶとは、君たちの教科学習、受験勉強といったものではなく、いかに生きるか、いかに自分を成長させていくかという大きな学びを指します。人生最後まで学ぶ姿勢が大切です。

改めて、今をしっかりと生きなければいけない、今の積み重ねが大切だとハッとさせられる言葉です。

◇◇◇◇◇◇◇◇ 調査報告と分析 ◇◇◇◇◇◇◇◇

3年 全国学力・学習状況調査

4月18日実施

平均正答率：%

	国 語	数 学	英 語
本 校	75	63	59
東京都	74	62	59
全 国	72.8	59.8	56.0

3年生の皆さんは昨年の状況を覚えていますか。2年生で行った東京都の学力向上調査では、ほとんどの教科が東京都平均を下回っており、「このままではたいへん心配です。奮起せよ2年生!」と書きました。

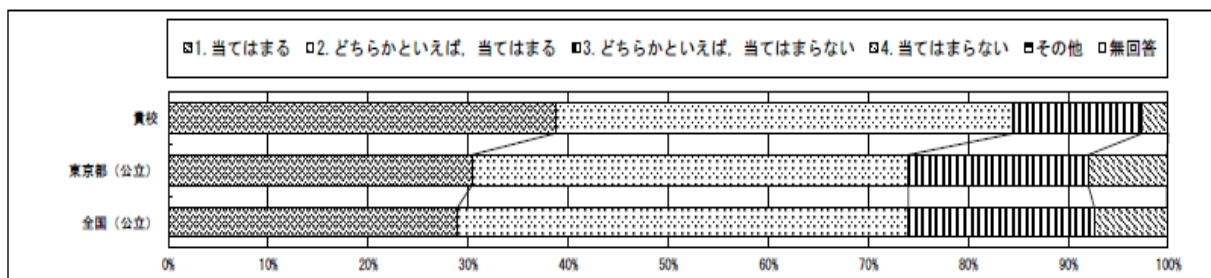
それから1年、今回はわずかですが東京都平均を上回りました。喜ばしいことです。今の3年生の授業態度からすると、さらに力が伸びているであろうということが想像できます。

ただし、この数値は全般的な傾向ですので、個人個人にとっては、それぞれの課題があるはずですので、そこを補う努力が必要です。また、各教科の分野別の問題点は、既に夏休み中に先生方が分析をしています。それを元に2学期以降の授業を組み立てていますので、授業をしっかり受けることが大切になってきます。

さて、同時に行われた学習を支える環境、意識、生活状況などの質問紙調査では、たいへん良い傾向が表れています。全69の設問の中から顕著な傾向が見て取れるものを次に示します。

よい傾向

質問番号	質問事項											
(5)	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	38.7	45.8	12.9	2.6							0.0	0.0
東京都(公立)	30.4	43.7	18.0	7.9							0.0	0.1
全国(公立)	29.0	45.1	18.6	7.3							0.0	0.1



この項目は毎年、都や全国を下回っていた設問です。今年の3年生は大変良い数値でうれしく思いました。自己肯定感の高まりが見て取れます。また併せて「物事を最後までやり遂げてうれしかったことはありますか。」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦していますか。」「学級みんなで話し合っただめたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」という設問でも大変良い数値となっており、成功体験、達成感を味わって前向きな姿勢で頑張っている開一中生の姿が見て取れます。

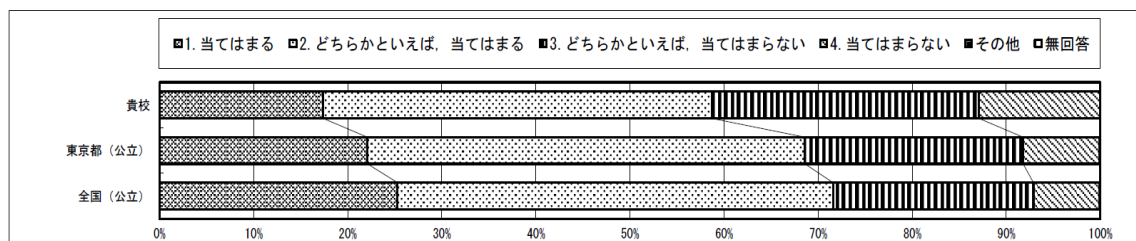
次に本校の特色ある教育活動である読書に関する質問「学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらい読書をしますか。」「読書は好きですか」は、大幅に都や全国を上回っており、本に親しみ、情操がはぐくまれていると確信します。

さらには教科の意識調査では、国語英語に関しては「好き」で「大切だと思ひ」「将来役立つと思

い)「進んで話したり、書いたり、発表したりしている」と答えていますが、数学に関しては、苦手意識があるらしく都や全国をやや下回る数値でした。

問題点と今後の課題

質問番号	質問事項											
(35)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	17.4	41.3	28.4	12.9							0.0	0.0
東京都(公立)	22.1	46.5	23.2	8.1							0.0	0.1
全国(公立)	25.3	46.3	21.3	7.0							0.0	0.1



この設問をどう考えるかです。「学級生活をよりよくするため」なのか「話し合い」なのか「互いの意見のよさを生かして」のどこに生徒たちがマイナスを感じているかを考えなければなりません。同じく「2年生の道徳の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」の設問もおよそ4%下回っていました。そこから考えると、教科や総合的な学習の時間では、話し合ったり、発表したり、プレゼンテーションをしたりしてはいるが、道徳、学級活動では今一步なのかもしれません。2021年度から完全実施される新学習指導要領では、話し合うこと、アクティブラーニングが求められていますから、今後じっくりとした話し合い活動を学級で深めていくことが求められます。

そのほかのマイナス面としては、「地域行事への参加」です。また、「授業におけるコンピューターの使用」は極端に低い数字となっています。今年9月、各教室にICT機器が入りましたが、コンピューター室の活用も各教科で推進していく必要があります。

2年 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査 7.5 実施

平均正答率：%

	国語	社会	数学	理科	英語
本校	74.2	49.7	57.7	47.3	60.3
東京都	71.7	50.9	52.9	49.3	55.9

3年ぶりに東京都の平均を上回る結果が出ました。これはたいへん喜ばしい結果です。ただし、国・数・英は3%から5%上回りましたが、理・社は平均以下という傾向で、本校で長く続くパターンそのままです。

◎学校以外で毎日およそどのくらい学習しますか。(塾や習い事は含めません)

	2時間以上	1時間以上	30分以上	30分未満	しない
本校	8.2%	20.0%	26.7%	31.9%	12.6%
東京都	5.4%	21.2%	31.1%	26.3%	15.4%

微妙な数値、二極化が見て取れます。2時間以上やる子が多いが、1時間未満の子も多いという二極化がはっきり表れています。かといってまったくやらない子は都よりも少ないという微妙な結果となっています。次の設問に塾や家庭教師に教わる時間の設問がありますが、「受けてない」は東京都が42.6%、本校が32.6%となっており、外部で学習している子を含めると、まずまず学習時間は確保されているといえるでしょう。

令和元年度 開進第一中学校 オリンピック・パラリンピック教育

今年度、本校では、2つの講演会を中心にオリンピック・パラリンピック教育を実践しました。



【サッカー・元日本代表コーチ】

法政大学スポーツ健康学部教授 **清雲 栄純 様**

高校時代はラグビーとサッカーを両立。法政大学卒業後、古河電気工業（後のジェフユナイテッド市原・千葉）で選手として活躍し、日本代表にも選出される。また指導者としても古河電工、ジェフユナイテッド市原の監督、日本代表のコーチ、ユース年代の監督などを歴任。現在、法政大学スポーツ健康学部教授、ジェフユナイテッド株式会社取締役。

「サッカーからのメッセージ」を聞いて 3年 丸山 咲桜

今、進路のことで不安に思っていることなどがたくさんあります。そこで清雲さんが言っていた英語が印象的で心に残っています。「Have to」「Want to」「do it」です。自分の受験において「Have to」は「勉強しなければならない」、「Want to」は「やるべきことをやろう」、「do it」は「行きたい高校に行くために勉強するしかない」というように置き換えると「頑張ろう」と思えました。絶対合格したいという気持ちが強くなり、これからの生活をまた改めようと思いました。



【北京オリンピック・ソフトボール金メダリスト】

東京女子体育大学講師 **佐藤 理恵 様**

東京都出身。現役時代は「走・攻・守」三拍子そろった遊撃手として活躍。日本リーグでは2004年に打点王、2006年・2007年には2シーズン連続でベストナインに輝く。日本代表として、2004年のアテネオリンピックで銅メダル、2008年の北京オリンピックでは5番、1塁手として金メダルを獲得。現在は東京女子体育大学講師・ソフトボール部監督。



「Road to Tokyo 2020」を聞いて 3年 石塚 晴翔

今回、佐藤さんの話を聞いて、「好きな事は続けることに意味がある」と感じました。もちろん才能なども必要になると思います。佐藤さんがソフトボールを始めたきっかけがお姉さんについて行ったことで始まり、そこからずっとソフトボールが好きで続けていき、やがてオリンピックで金メダルを取ることができて、本当に凄いと思いました。挫折も1回あったと聞きましたが、見事金メダルを取れたことがとても尊敬します。佐藤さんは、本当にソフトボールが好きで、オリンピックでもメダルが取れたお話を聞き、私も好きなものをずっと続けていこうと思いました。



開進一中生の活躍

令和元年度
薬物乱用防止ポスター
東京都選考「優良賞」受賞
「合法ドラッグなんて無い」
1年 池嶋 万侑



◆令和元年度練馬区読書感想文コンクール

【優秀者】 田中 美羽 (1年)
金子 愛実 (2年)
加藤 香佳 (2年)
時田 奈菜子 (3年)
高橋 礼那 (3年)
渡邊 みちる (3年)

◆卓球部

◇練馬区中学校総合体育大会
男子シングルス【5位】佐藤 空 (2年)